

---

# 特集「胸部外科領域における 周術期管理の重要ポイント」によせて

---

編集主幹

小野 稔      千田 雅之

---

高いクオリティの手術に欠かせないものは何であろうか？ 緻密で的確な術前検査と診断，洗練された手術テクニックと円熟したチームワーク，さらに先手必勝の術後管理の三種の神器がそろってはじめて最高のクオリティの治療を提供できるのではないかと思われる。

新たな診断機器や技術の登場，ガイドラインの浸透によって，併発症の管理を含めて，漏れのない術前評価が浸透しつつある。外科医のもっとも得意とするところは，手術テクニックの洗練と向上であろう。これに新たな治療補助デバイスや装置の導入が加わり，低侵襲治療，小切開手術，早期抜管，早期退院や社会復帰が促進されることは技術の進歩の賜物である。しかしながら，手術チームの本当の実力は周術期の合併症を回避することであり，万が一回避できなくとも，迅速な対応によって増悪を未然に予防することができる能力であろう。いかに正確で安全な手術を実施したつもりでも，術後合併症は起こりうる。昨今の血管内治療の普及によって，複数の併発症を有するようなハイリスク外科手術症例が増加傾向にある。併発症によるさまざまなシナリオを描きながら治療に取り組むことは，時間が限られた中で容易

ではないこともある。

本特集はそのような現場の要望に応える形で、心臓血管外科、呼吸器外科、食道外科のわが国を代表する施設の先生方に筆を揮ってもらった。術前併発症がある場合の留意点から、心がけるべき手術中のマニピュレーションならびに周術期の観察ポイント、また重大な合併症をどのように回避するのかについて、わかりやすく解説していただいている。日常の周術期管理にぜひとも役立てていただき、読者の施設の手術成績をさらに向上していただくことを期待している。